

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(高雄小学校)

1 平成27年度 重点評価項目

1. 確かな学力の育成(子どもが達成感や充実感を味わう授業の改善 学習習慣の確立) 2. 豊かな心の育成(進んで道徳的実践をしようとする道徳教育の充実) 3. 健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立, 安全指導の充実)

2 1回目評価

分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	自己評価	学校関係者評価	
評価日	評価者・組織	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価日			
1 確かな学力	子どもが達成感や充実感を味わうよくわかる授業 子どもが達成感や充実感を味わう言語活動の充実 自学自習の習慣の確立	京都市スタンダードをもとにした学習計画の充実 めあて・発問・板書の充実 ノート指導の充実 国語科での単元を貫く言語活動の充実 グループ活動や少人数での話し合い活動の充実 すべての教科・領域での言語活動や表現活動の充実 学習予定表の充実 帰宅タイム・読書タイムの充実 家庭訪問などによる個別の働きかけ 学習計画の共有・読書指導の充実	児童アンケート「学校の授業はよくわかっている」全国学力学習状況調査結果 児童アンケート「自分の考えをはっきりさせている」教職員アンケート「言語活動の充実」 児童・保護者アンケート「家庭学習の様子」教職員アンケート「学習の見通し」「家庭学習への働きかけ」 児童アンケート「自分に必要な学習に取り組んでいる」60%90%でいる 教職員見通しの持てる教材研究90%できている 保護者読書77%できて	児童アンケート授業がわかる97% 先生はわからないと答える10%をよく教えてくれる100% 全国学力学習状況調査 国語AB算数理数で京都平均・全国平均を4~10%上回る 児童アンケート考え方をはっきりさせている11~17%できていない 教職員アンケート言語活動の充実した授業づくり89%できている 児童・保護者アンケート「家庭学習の様子」教職員アンケート「学習の見通し」「家庭学習への働きかけ」 児童アンケート「自分に必要な学習に取り組んでいる」60%90%でいる 教職員見通しの持てる教材研究90%できている 保護者読書77%できて	子ども達が達成感や充実感を味わい、向上心を持ったことに重きを置いて授業改善に取り組んできたところ。アンケート結果にも学力学習状況調査による良い結果が得られた。今後も、すべての教科領域で言語活動を充実させるなど具体的な授業改善をすることも、互いの授業を公開して、取り組んでいくところを取り入れていくなど教職員も向心を持って取り組めるようしていき必要がある。また、タームごとや読書タイムの取組や家庭学習での働きかけを充実させることで、学習習慣を定着させたり基礎基本の習得を測りたりすることも求められる。	子ども達は、自分のわからぬところをきちんと教えてもらえるという安心感を感じている。低学年でできたいなという回答があるのは、わからないところがわからぬということではないかと思える。教師の努力がきちんと伝わっている。高学年で予習をしてほしいと願う。	
2 豊かな心	道徳的実践に生かす道徳の時間の充実・道徳教育 みんなが楽しく過ごせる学級づくり	子どもの道徳性を引き出す広く深い道徳の時間の授業の充実 授業公開とともにうる接実験研究の充実 道徳性の伸長の足跡を残す取組(掲示物・ハーフフル会議)	児童・保護者・教職員アンケート「あいさつ」「ごみの最後始末」「整理整頓」「時間」を守る。日常の行動観察	あいさつで「できる」児童87.7%教職員70%保護者69.2%ごみが落ちているとき「進んで拾う」児童78.0%掃除あと片付け「よそへできる」教職員77.8%	90%を超える子ども達が「学校が楽しい」と回答しているのは、日頃からの子ども同士の関係や子どもと教職員との関係づくりがうまく進んでいることの表としてあるとかられる。しかし、少年人はいえ「楽しい」といいくらい子ども達に目を向ける必要があり、集団に対しても子ども個々に対しても子どもに働きかける必要がある。また、子どもの道徳的実践を促すのは、教師が範示することにほかならず、教職員の行動を見せて子ども達は育っていくことを意識して日頃の取組を進めなければならない。	子どもそれぞれの個性があり「明るく挨拶」というのは難しい目標だ。重要度と実現度の差が一番大きい項目だ。親が子どもの良い見本になっているか問われているように思う。親のほうも豊かな心の実践があまりできていないようと思う。	
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立 安全指導の充実	早寝・早起き・朝ごはんの励行・保健だよりの発行を中心とした家庭への働きかけ 長期休業明けの生活リズム調べ	児童・教職員アンケート「早寝・早起き・朝ごはんの励行」生活リズム調べ「早寝・早起き・朝ごはん」	児童アンケート「家の外での安全」教職員アンケート「安全についての環境整備」「安全な生活の指導」集団登校・下校の様子	児童アンケート家の外での安全で過ごすとき安全に気づいている」98.6%教職員アンケート安全の指導「できている」100%	児童は交通量の多い国道を通って通学していることもあり、子ども達の安全に対する意識は高い。放課後の時間の確保において具体的に自分で自分を守れるように指導を深める必要がある。また、下校時の見守りについても保護者、地域に呼びかけることが必要である。健やかな暮らしについては従来の指導を継続することが求められる。	朝ごはんを食べている率の高さに驚いた。朝ごはんを食べると元気になり、良い睡眠がとれるので素晴らしい。親として子どもとしっかり向き合っているか問われているように思う。
4 独自の取組	下校方法の変更による放課後の時間の確保 情報の発信 小中連携	集団下校の廃止 放課後の個別指導・仲間作りの充実 安全指導の充実 検数での下校の意識づけ 学校ホームページやPTAメールによる情報発信 学校だよりや学級だよりなどによる情報発信 管理職・教務主任を中心とした定期的の連携会 小中連携に基づく若年研究会、各分掌同士の連携 小中で共通の学校運営協議会・PTA組織	保護者アンケート自由記述欄 PTA運営委員会での意見 保護者からの意見 保護者アンケート自由記述欄 保護者アンケート「学校からの情報でよくわかる。」 保護者アンケート自由記述欄 PTA運営委員会での意見 保護者アンケート中学校との連携	一部下校時の安全に対する不安の声はあるものの、おおむね、放課後に残れることについて肯定的にとらえている声が多い。	高学年から順番に少しずつ集団下校を廃止したこと、無理な放課後の時間確保することできることでできた。しかしながら、子どもを取り巻く交通事故は危険であることに変わりなく、学校での安全指導はもとより、地域・保護者と連携して子どもを安全を確保する取り組みがさらに求められる。また、情報が速やかに伝達できるように働きかけが必要になる。さらに、中学校と子どもの様子や授業の様子についてもさらに深まつた連携ができるようしていく必要がある。	PTA運営委員会や学校運営協議会を通して、子ども達の安全についての情報を集め、その改善策を一緒に考えていくようする。また、PTAメールやホームページについても、保護者の協力を求めるようする。さらに中学校との連携を深めるために、小中合同のPTA組織や学校運営協議会の特性を生かした取組を進めたり、小中での若年研究を通じた授業研究も進めたりしていく。	親の悩みは昔から変わらない。親が子どもの前で本を読んだりしているか気になった。低学年の親は特にPTAメールを利用すべきだと思う。